

---

# とある屋敷の執事と坊ちゃん

久路間左京

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

とある屋敷の執事と坊ちゃん

### 【Nコード】

N8978C

### 【作者名】

久路間左京

### 【あらすじ】

ここはとある国のとある屋敷。その屋敷の執事と主のぬるーい会話をご覧あれ

ここは、とある時代のとある国のとある屋敷。

「なあ、執事」

「何でしょう坊ちゃん」

「普通、屋敷ものや執事ものの作品といたらこの豪邸の主がツインテールのツンデレ女の子で不幸な執事がそれに振り回される日常だったり、逆に主が男だったら執事じゃなくある意味不幸なメイドさんの姉妹をいじめたり逆に殺されかけたりするとかの面白おかしい日常とかを話にするのが常識じゃないのか？」

「あまり細かく触れると下手をすれば著作権などに引っかかりますよ？」

「たぶん大丈夫だ。大体の内容は出ても、作品の名前などは出してはいない」

「ハ テのご く！。これ のご 人様、などですか？」

「・・・執事、お前は俺を犯罪者にしたいのか？」

「いいえ、なるのはこのような小説を書いている作者です」

「そうか、ならいい」

「そうです坊ちゃん」

「話を戻すぞ。この話に足りないものは何だと思っ？執事？」

「人手ですか？」

「近いが違う」

「では、このような話を手がけている作者の脳みそでしょうか？」

「ある意味正解だが少し違う。足りないものそれは『女の子』。主人公が俺だから、いわゆる『ヒロイン』だ」

「……………」

「そう、ヒロインがない。読者だってこんな男たちのどうでもいい会話なんて聞いていて面白くないと思っんだ」

「……………」

「この手の作品で面白いといえば、やはりどたばたのラブコメだ。さっき軽く著作権に引っかかりそうになった作品もやはりヒロインが存在するラブコメだ。俺がほかに見た小説の先生方の上位の作品も大抵ラブコメだった」

「どこで見たのですか？それらの作品を？」

「自室のPC。『小説にろう』というサイトだ」

「この時代にパーソナルコンピュータなるものが存在してよろしいのですか？」

「かまわん。コメディーだ。多少の無理は許される。それに言うなら脳みその足りない作者に言ってくれ」

「かしこまりました」

「とにかくだ。このサイトのコメディー部門、上位の作品のほとんどがラブコメだ。そして面白い。特に、荒らしなどがあつたが1位の作品はとても面白かつた。何でも、評価した人の中にさくらがいたそうだ。面白かつたがそれだけに残念だつた。まあ、実際さくらがいたかどうかもわからないがな」

「是 先生に怒られるのでは？」

「すみませんでした。少々調子に乗っていました」

「許されるのでしょうか？」

「神のみぞ知るところだ」

「左様でございますか」

「左様だ。また話がずれたな。悪い癖だ。直す気はないがな。で、何が言いたいかと言うとだな、やはりヒロイン、運命的な女の子が、将来の伴侶となりうる人物などがいないと面白くないと思うのだ」

「・・・・・・・・」

「執事？」

「坊ちゃん」

「なんだ？」

「私、結婚してありまして妻と子供がおります」

「初耳だな。お前年は25であつたか？」

「はい、同い年の奥さんです。いわゆる幼馴染というやつです。昔はよく喧嘩などをしておりました」

「お前が喧嘩などするところなど想像できんな。いつもつかみどころがないお前が」

「坊ちゃんほどではありませんよ」

「褒めているのか？それともけな貶しているのか？」

「どちらかというと後者です」

「ふむ、それはさておき話を進めようか」

「はい。それで坊ちゃん。この作品の題名をご存知ですか？」

「たしか、『とある屋敷の執事と坊ちゃん』、だったな。なんのひねりもないタイトルだ作者のそこの浅さが見える」

「はい。ですが坊ちゃん、気付いたことはありませんか？」

「？」

「タイトルです。』とある屋敷の執事と坊ちゃん。』執事と坊ちゃん』」

「ふむ、そっちのほづが言いやすいからな」

「それだけではございません」

「？」

「実はこれは私が主人公の話なのです。ですから私の名が先に来ているのです」

「・・・・・・・・・・」

「先ほど申した通り、私既婚者でございます。しかも相手は昔よく喧嘩したはずの幼馴染。王道です」

「・・・・・・・・・・」

「ですから坊ちゃん、これはヒロインは出ていないだけで実在するのですよ」

「・・・・・・・・・・」

「ですが気にすることはありません。坊ちゃんはまだ16ですし私から見てもルックスはかなりいい。性格はアレですが、引かれるような性格ではありません。そのうち坊ちゃんにも出会いがありますよ。かの有名な配管工の兄弟の緑色の弟のように」

「例えが嫌だし、また著作権に引っかけりそうなことを」

「つかまるのは作者ですが？」

これは主人公じゃないけど、とある屋敷の若い主の少し悲しいお話・

・  
・  
・  
・  
・

(後書き)

始めましての方、始めまして。

お久しぶりの方、お久しぶりです。

約3ヶ月ぶりの下手をしたらつかまりそうな左京です。

第3作目を投稿させていただきました。

最近の小説ではなくネットゲーをずっとやっております。しばらく放置していたら、第一作目の作品がアクセス5000を回っております。

うーん……。

あのような駄作を見ていただいた方ありがとうございました。

ちなみに2作目は削除しました。あしからず。

今後もネットゲーをやっていくつもりですが、もし読者の方で私を見かけたら声をかけてみてください。挨拶を返すかもしれません。名前は『久路間』です。

さて、話がずれました。悪い癖です。直す気はありませんが……読んでくださった方、面倒でなければ評価や感想をしていただければとてもうれしく思います。よろしく願います。

では、またいつの日か

以上、相変わらず後書きが長い久路間左京でした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8978c/>

---

とある屋敷の執事と坊ちゃん

2010年10月18日18時54分発行